

小学校 第6学年 E ボール運動 イ ネット型「ソフトバレーボール」

単元の目標

| | |
|--------------|---|
| 知識及び技能 | 基本的なボール操作や、チームの作戦に基づいたボールを持たないときの動きを理解し、簡易的なゲームの中で生かすことができるようにする。 |
| 思考力、判断力、表現力等 | 自分やチームの課題を見つけ、それを解決するために友達と協力しながら、練習の仕方や作戦を工夫することができるようにする。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | 作戦を成功させるための自分の役割を果たそうとしたり、友達を励まして声をかけたりして、練習やゲームに積極的に取り組むことができるようにする。 |

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 評価規準 | |
|------------------------|---|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|--|---|
| ねらい | 競技の特性やボール操作等について理解するとともに、自己の課題を見つけていくことができる。 | 基本的なボール操作（サーブ、レシーブ、トス、アタック）や、ボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことができる。 | 準備運動（ストレッチ）の紹介を兼ねる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | チーム全員が活躍するために、自己やチームの特徴を生かした作戦を考え、自分の役割を果たしながらゲームを楽しむことができる。 | | | 【知識・技能】 ① サーブ、レシーブ、トス、アタックの動きのポイントを言ったり書いたりしている。 ② 得点につながる動きや、作戦をもとにした自分の動き（役割）ができていく。 | |
| 導入 | 競技の特性や正しい方、基本的な動きについて理解できるように、映像等を使って説明する。 | 準備運動（ストレッチ）の紹介を兼ねる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 【思考・判断・表現】 ① 仲間と協力しながら、ポイントをつなげるための動きを見たり、作戦を考えたりしている。 ② ボールを上手につなげ、より得点に結びつくための作戦（フォーメーションやコンビネーションなど）を考え、友達に伝えている。 | |
| 展開 | ボール操作やブレイク中の動きの課題を見つけていくために、試しのゲームを行う。 1 チーム5～6名（男女混合）とし、コート内3名、外2～3名がローテーション（1分交代）しながら行い、外の人は得点板を操作する。 試合時間は5分とする。 | 動きのポイントを提示し、基本的なボール操作の練習を行う。 1. まっすぐサーブを打つ練習 2. ボールの落下位置に移動し、レシーブをする練習 3. レシーブやトスで、味方にパスをつなぐ練習 4. パスをつなぎ、5回以内に相手コートに返球する練習 共：（1）全員ができる感覚をつかむための、「子供の思考を促す質問」と「考えを伝え合う場面」の設定 ・ チームの特徴を生かした作戦が成功できるように、ポジションを固定してゲームを進めるようにする。 ・ 外のチームメイトが相手チーム役にになり、作戦がよりよくなるよう声をかけをするように指導する。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 【主体的に学習に取り組む態度】 ① 学習に積極的に取り組むこととしている。 ② マナーを守ったり相手との健康を認めたりして、フェアなプレーを守ろうとしている。 |
| 終末 | 今後の学習の見直しをもつことができるように、ボール操作やブレイク中の動きについての課題を話し合う。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | 準備運動（ストレッチ）や、ボール操作の課題を見つけていくことができる。 | | |
| 整理運動、振り返り（授業後アンケート）の記入 | | | | | | | | | |
| 知識・技能 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | | |
| 思考・判断・表現 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | | |
| 主 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | | |

自分の考えを伝え、仲間と運動を楽しむソフトバレーボールの学習
 小学校第6学年 E ボール運動 イ ネット型「ソフトバレーボール」

1 単元目標

- 基本的なボール操作や、チームの作戦に基づいたボールを持たないときの動きを理解し、簡易的なゲームの中で生かすことができるようにする。 【知識及び技能】
- 自分やチームの課題を見つけ、それを解決するために友達と協力しながら、練習の仕方や作戦を工夫することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 作戦を成功させるための自分の役割を果たそうとしたり、友達を励まして声をかけたりして、練習やゲームに積極的に取り組むことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 全員ができる感覚をつかむための、「子供の思考を促す問い」と「考えを伝え合う場面」の設定

単元の総時数を7時間とし、前半（第1～4時）を個人技能の高まりを重点に、後半（第5～7時）をチームの動きを高めることに重点を置いて進めた。

① 単元前半における「子供の思考を促す問い」と「考えを伝え合う場面」の設定

個人技能の高まりを重点に、ドリルゲームやタスクゲームなどを設定した。「どうすれば、上手にパスをつなげたり、ボールを落とさずにパスしたりできるだろうか」という問いを設定したところ、子供たちは、チーム内で練習に取り組み、「〇〇くんのように、すぐにボールの方を向いて走るとボールに追いついた」や、「みんなで声をかけながらやってみると、パスが30回もつながってうれしかった」など、互いに考えを伝え合いながら、仲間と協力して運動を楽しむ姿が見られた【資料1】。



【資料1 ドリルゲームを行う様子】

また、メインゲームでは、ドリルゲームやタスクゲームで見つけた動きのポイントを活かして、様々なポジションで運動を楽しむ姿が見られた。

② 単元後半における「子供の思考を促す問い」と「考えを伝え合う場面」の設定

チーム（集団）としての動きの高まりを重点に、ポジションは固定してゲームを行うこととした。前半の段階で、同じチーム内でお互いのよさや特徴をつかんできたため、「だれが、どこのポジションになると、もっとラリーがつながるだろうか」という問いを設定し、お互いの特徴を生かしたポジションや隊形、作戦などを考えるようにした【資料2】。子供たちは、「ひし形の隊形にすると、どこにボールが来てもみんなで拾えると思う」や、「ジャンプの得意な人や背の高い人がネットの近くで相手の邪魔



【資料2 作戦を話し合う様子】

をして、素早く動ける人が後ろで構えるとボールが落ちずにつながりそう」などと、チームの特徴を考えて、メインゲームで試し、チームの仲間と運動を楽しむ姿が見られた。

(2) 仲間と協力して運動を楽しむルールづくり

今回の実践では、1時間目のオリエンテーションで「初めのルール」を提示した【資料3】。その際、「みんなが楽しむために、ルールは、変更したり、新しく付け加えたりしてもよい」ことを伝え、学習を進めた。毎時間の学習の振り返りでは、「今日のルールはどうだったか」と確認する時間を必ず設けるようにした。すると、「ボールがすぐにコートに落ちてしまってラリーが続かないので、1バウンドまでOKにしたい」や、「失敗したときに友達を励ますこともルールに入れたらもっと楽しくなる」などの意見が出たので、『みんなが楽しむこと』につながるルールになっているか全体で確認して、ルールの修正を行った。

ソフトバレーボール
～初めのルール～

- ・試合は4人対4人で行う。(外の人には得点係)
- ・一人が連続でボールに触ってはいけない。
- ・5回以内に、相手コートにボールを返す。(1回でもOK)
- ・1分経過で、メンバーを交代する。
- ・「相手のコートの床にボールが落ちたとき」や「相手が5回以内にボールを返せなかったとき」に、得点となる。
- ・上手にできるコツがひらめいたら、チームの友達に伝える。
- ・最後まで絶対にあきらめない。(ボールを落とさないように)
- ・必ず、チーム全員で準備と片付けをする。

- ・1バウンドまで続けてOK!
- ・交代の順番を決めておく。
- ・サーブは、ネットに近い人が打つ。(ファールはやり直し)
- ・友達が失敗したらはげましてあげる(ドンマイ!)

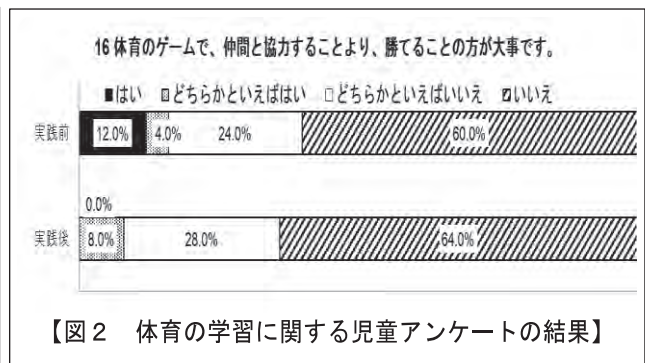
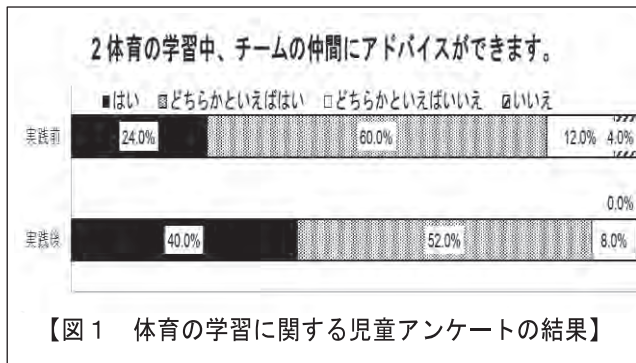
【資料3 初めのルール】
※点線の枠が、新しく追加されたルール

3 成果と課題

(1) 成果

- 「子供の思考を促す問い」や「考えたことを伝え合う場面」を設定したことで、考えを交流する必然性が生まれたり、交流する内容が明確になったりして、自分の考えを仲間伝えていた児童が多く見られた。
- 自分たちでルールづくりを行うことができるようにしたことで、主体的に考えたり、自分だけでなくクラスみんなのことを考えたりする姿が見られるようになった。
- 単元の事前・事後アンケートを見比べると、ほとんどの項目で向上が見られた。特に、「友達にアドバイスをすることができる」の項目は約80%から約90%に向上した【図1】。また、「仲間と協力することより、勝てることの方が大事」の項目で、肯定的な回答が大きく減少した【図2】。

以上のことから、「子供の思考を促す問い」や「考えたことを伝え合う」場面の設定、ルールづくりを行ったことは、有効に働いたと考える。

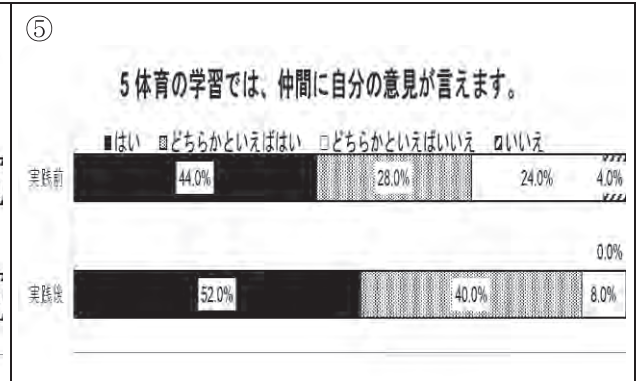
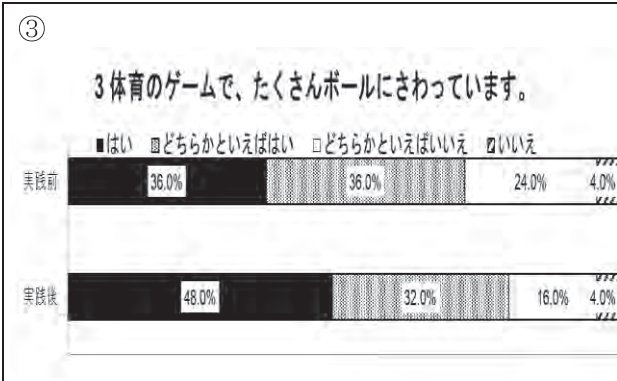


(2) 課題

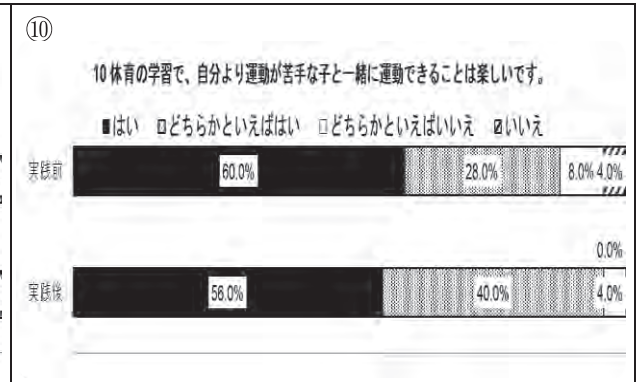
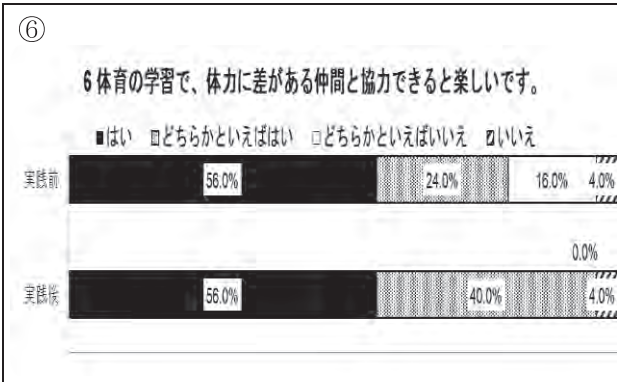
- 単元を前半と後半に分けて重点的に指導を行ったことにより、ねらいが明確になったものの、子供の中で1単位時間の「目標」が明確ではなかった。前時とのちがいや本時の課題を明らかにした導入の仕方や、振り返りで次時の課題を決めるなどの手立てを構築する必要がある。
- 教師が子供の姿を適切に価値付けたり、よい姿として全体で交流したりする手立てが必要である。

【児童生徒の変容】

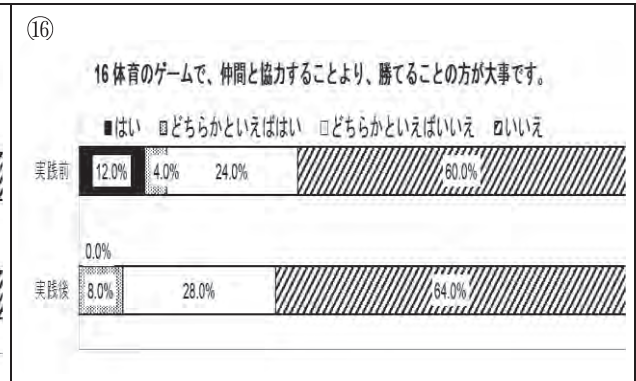
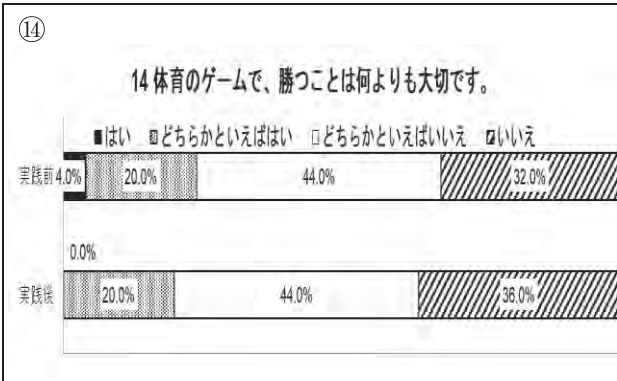
〔Ⅰ リーダーシップ〕



〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅴ 過度な勝利志向〕



〔排除雰囲気〕

